

年度/Academic Year	2022
授業科目名/Course Title (Japanese)	データサイエンスを活用した情報システム構築
教員名/Instructor (Japanese)	寺尾 敦 松澤 芳昭 居駒 幹夫
講義概要/Course description	
<p>ビッグデータや強力な AI 手法が簡単に利用可能になり、企業の変革、業務の刷新にデータサイエンス的なスキルが不可欠になった。データを活用した情報システムを構築するためには、適用対象のビジネスを良く知ることに加えて、データ分析の知識も必要となる。この講義では、実際の企業でのビッグデータ活用事例を紹介し、そこで使われているデータ分析や統計の基本を学ぶ。また、オープンデータ等を活用した演習を企業経験の豊富な講師も含めて実施する。</p>	
達成目標/Course objectives	
<p>データサイエンティストのスキルとして重要なビジネス、データサイエンス、データエンジニアリングの基礎を身に着ける。情報システムアーキテクトを目指す受講者が自分の業務の改革のツールとしてデータ分析手法やソフトウェアツールを使用できるようになる。</p>	
授業計画/Lecture plan	
講義回	
H.W.	教科書を使った事前学習： データサイエンスの基礎（統計ソフトウェアRの基礎。記述統計学の基礎、推測統計学の基礎）を教科書を読んで事前学習する。
1	科目紹介。データサイエンティストに求められるスキル（データサイエンス、データエンジニアリング、ビジネス）。本科目の進め方の説明。学習環境の構築。二日目までの宿題説明。（居駒、寺尾）
2	ビジネスにおけるデータ活用（居駒）： ビジネス現場でのデータサイエンスとその課題 統計分析、検定をビジネス適用時の課題と対策
H.W.	教科書に沿った演習： 統計分析：総合的指標の作成（主成分分析）、 潜在変数による相関分析（因子分析）
3	データサイエンスの基礎（寺尾）： 事前学習の確認。 統計分析：総合的指標の作成（主成分分析）、 潜在変数による相関分析（因子分析）
4	ディスカッション。三日目までの宿題説明(寺尾)

H.W.	e-Learning教材+教科書に沿った演習： 対象の分類(判別分析、クラスター分析)、 予測(回帰分析、重回帰分析・ロジスティック回帰分析) データエンジニアリングのビデオ教材(松澤)視聴
5	データサイエンスの基礎(寺尾)： 事前学習の確認。ディスカッション。 統計分析：総合的指標の作成(主成分分析)、 潜在変数による相関分析(因子分析) 四日目までの宿題(データサイエンス活用計画立案)の説明
6	データ解析専用環境の紹介(居駒+ゲスト講師)： データサイエンスで学んだ統計的な手法をサポートしたBI(ビジネスインテリ ジェンス)基盤の事例(DataBricks社の製品を予定)を紹介し、どのように活用可能か を学習する。
H.W.	受講生の現場でのデータサイエンス活用計画立案
7	受講生のデータサイエンス活用計画発表(寺尾)(松澤)(居駒)
8	全体まとめ
授業方法/Method of instruction	
対面教育(9.3H)とホームワーク(13.2H)で構成する。ホームワークでは、e-Learning+教科書 を使用した自習を行い、講師が指定した成果物を次回講義までに用意する。対面教育では、 ビジネス部分の講義およびホームワークの結果のディスカッションを行う。	
成績評価方法/Evaluation	
講義で扱われた統計手法の理論的理解とデータ分析の実践のスキルを評価する。また、その 成果を自分のビジネスにおいて活用できるスキルを評価する。	
参考書/Reference books	
山田 剛史・杉澤 武俊・村井 潤一郎 『Rによるやさしい統計学』オーム社 株式会社ブレインパッド 『失敗しないデータ分析・AIのビジネス導入』森北出版 酒巻隆治・里洋平 『ビッグデータを活かすデータサイエンス』東京図書	